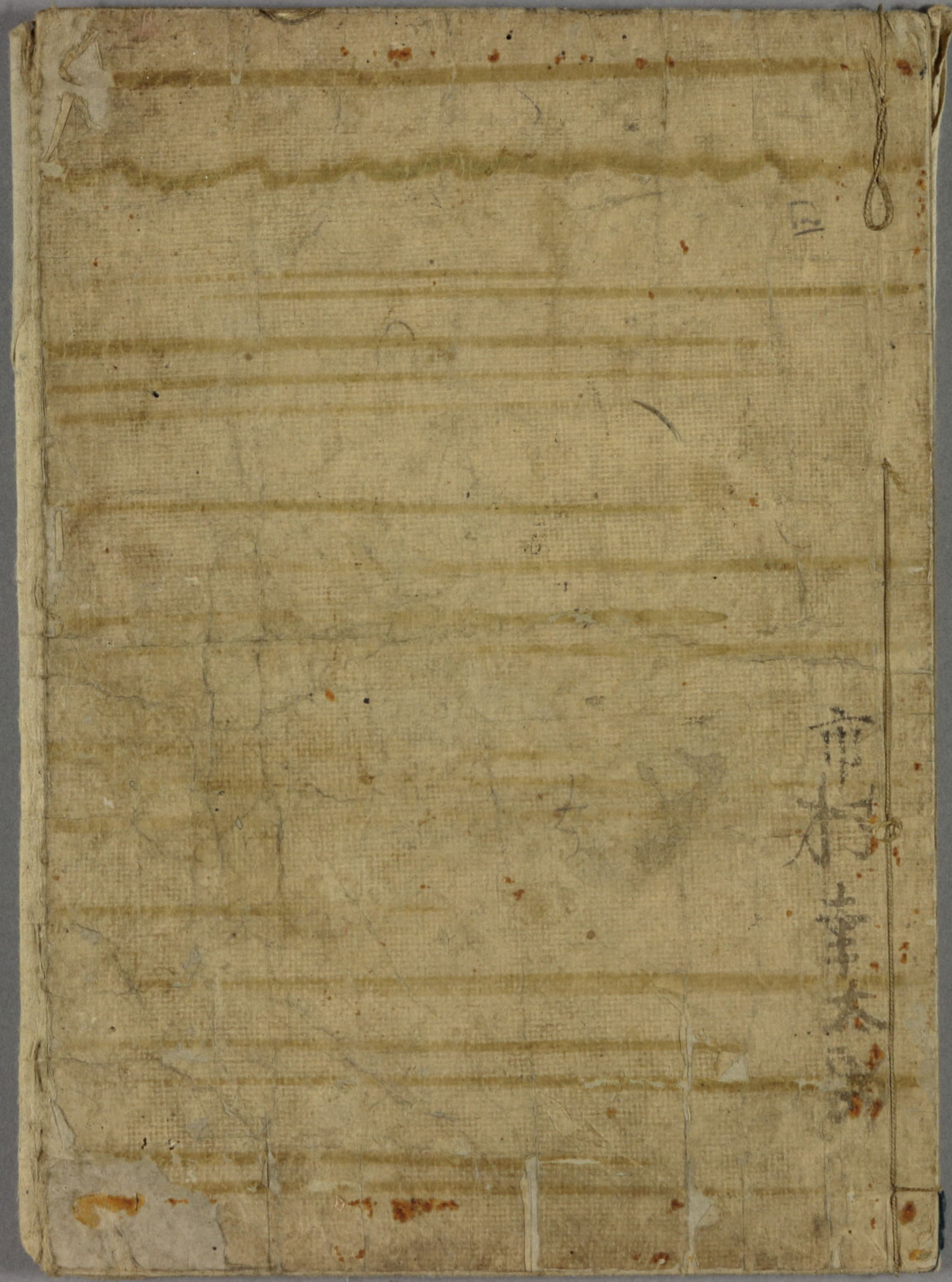
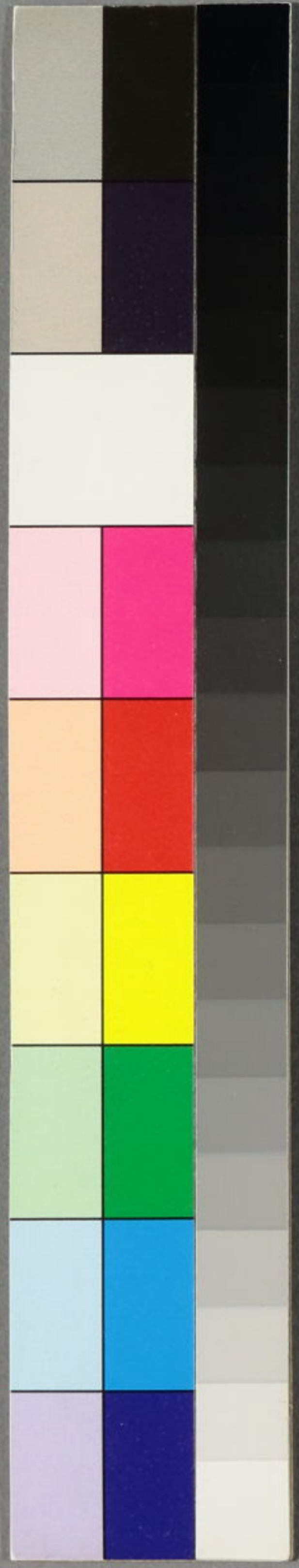






茶
草
子
子

諸國
圖會

年中行事大成卷之三上

四月之部目錄

立夏

記事

上卯

柳瀬

系

住吉卯系

大神系

大和

上辰

八瀬

系

上巳

山科

系

上午

菅宮

系

上申

平野

系

江文系

新宮系

近江

當麻系

大和

上酉

松尾

系

太秦系

梅宮系

系

上亥

大津

系

中子

吉田

系

中山系

中卯

八幡

系

宗像系

中辰

向日

系

中午 御落祭 糸 賀祭 糸
 中申 山王祭 糸
 中酉 葵祭 糸
 中亥 暖藏祭 糸
 朔日 更衣 糸 孟夏 旬 貢氷 糸 虎杖狩 糸
 三十日 溝 糸
 三日 山崎日頭 糸
 四日 水屋能 糸 廣瀬龍田祭 糸
 七日 擬階 糸 結夏 糸
 八日 灌佛 糸 比叡山戒壇堂佛生會 糸
 山崎祭 糸 水々瀬祭 糸 真福寺佛生會 糸
 春日安居屋 糸 墨田垣張 糸 筑摩祭 糸 芝祭 糸
 浅間嶽散錢集 糸

九日 地主祭 糸
 十四日 尚麻速竹養 糸 神衣祭 糸 土塔會 糸
 十五日 新熊野社大般若 糸 五山集拂 糸
 十六日 三井寺千圓鏡 糸
 十七日 日光御祭 糸 月御宮御祭 糸
 十八日 如法持會 糸
 廿一日 高野花供 糸
 廿五日 端午飾人形店開 糸
 廿八日 駒 糸
 月令 子親啼 糸 桑柘 糸 松茶渡 糸 鶉飼 糸
 麦秋 糸 笋進献 糸 牡丹為茶藝子花昇 糸
 目錄年

年中行事大成卷之三

四
月
之
部

禮記月令云是月也蟄蟲咸俯出王瓜生苦菜秀又云立夏之日天子親三公九卿大夫士帥之以夏之南郊又云是月農以備民之始也時衣朱衣赤而赤有有了了ふくむ大樹を伐て打れたれ農夫方らひ民と朝先々時衣朱衣赤とあることかかれ百業とありぬ畜ふ麻州死麦杖至周となく

立夏

漢書曰夏なつと假かりあり物假ものかり大多おほく多おほく宣平せんへいなり物賦ものふ任養にんよう一長いちちやう

大^{だい}よりむとく又夏^{あき}をあはれし也未^{いま}と介^{かい}と音通^{おんつう}候

京師

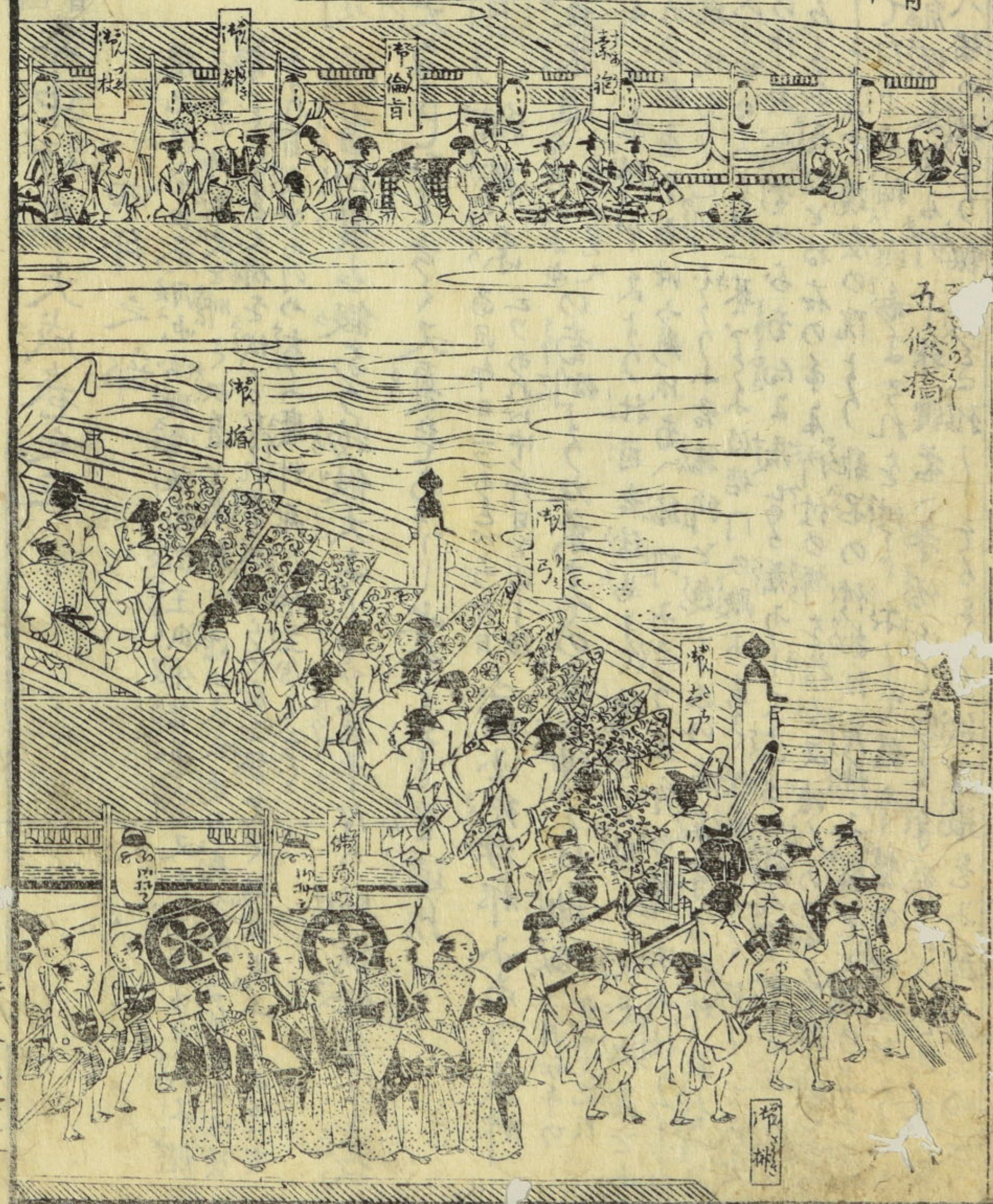
卯日

○ 縮荷糸
 高月廿日ニツあまぐ上ノ日
 ニツあまぐ中ノ日を用し
 山城五紀傳郡小あり糸昨

五葉通今の松系屋よりいふ是之の勅もう九葉すでの産う土神すなとに神しん傳でん
二月初午の
桑下桑下に祀まつる

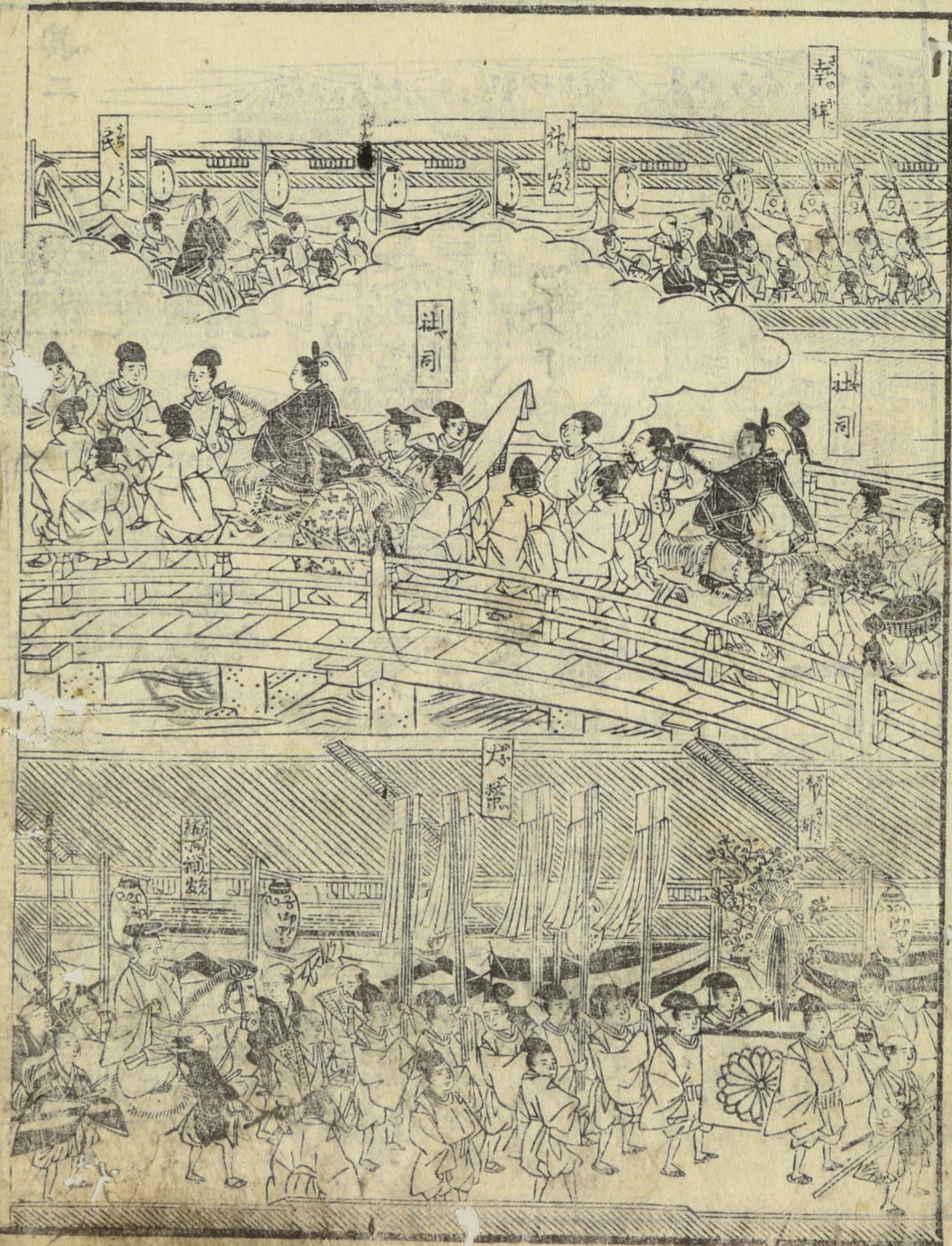
[illegible]

四月 卯日 京都 稻荷祭之禮圖



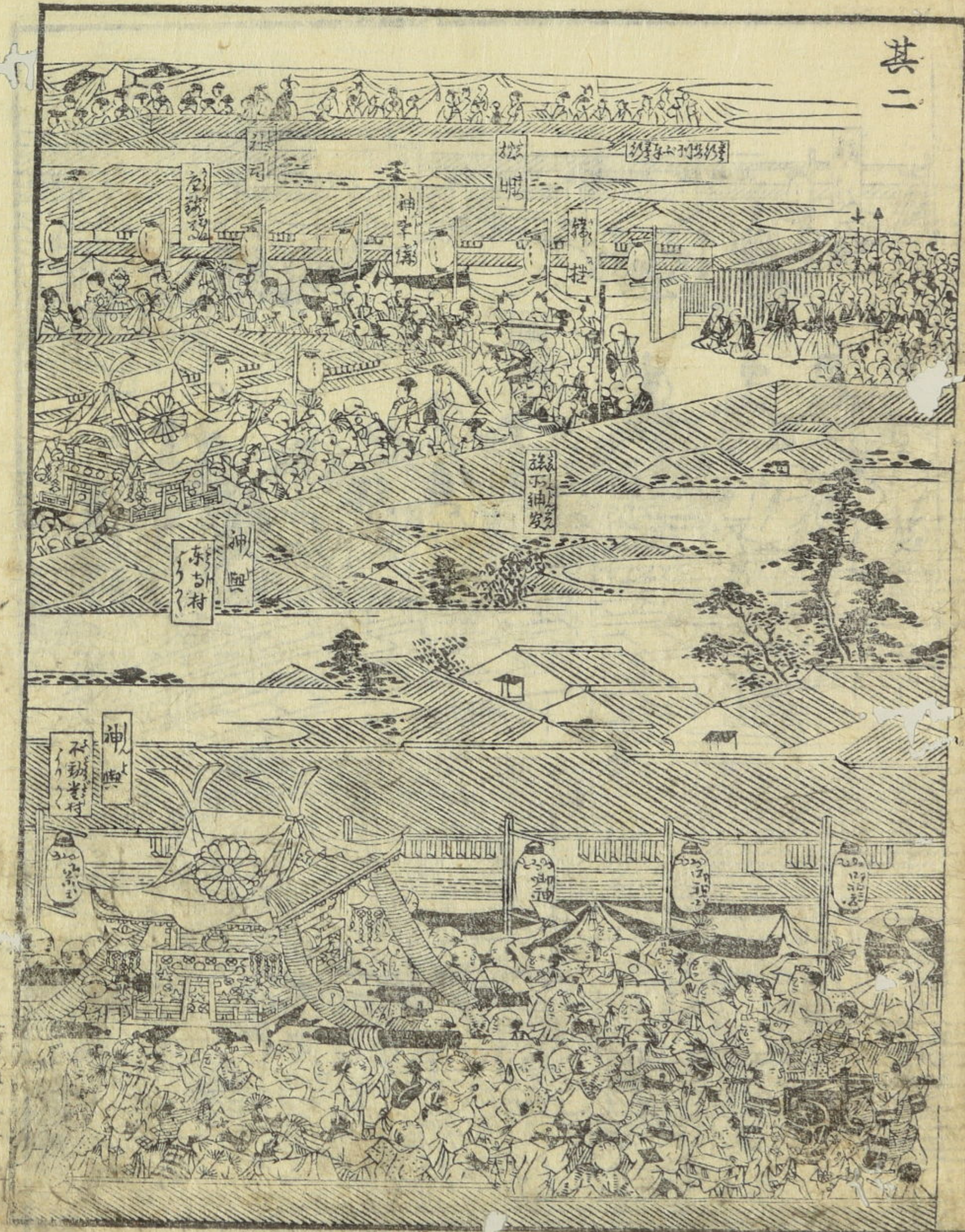
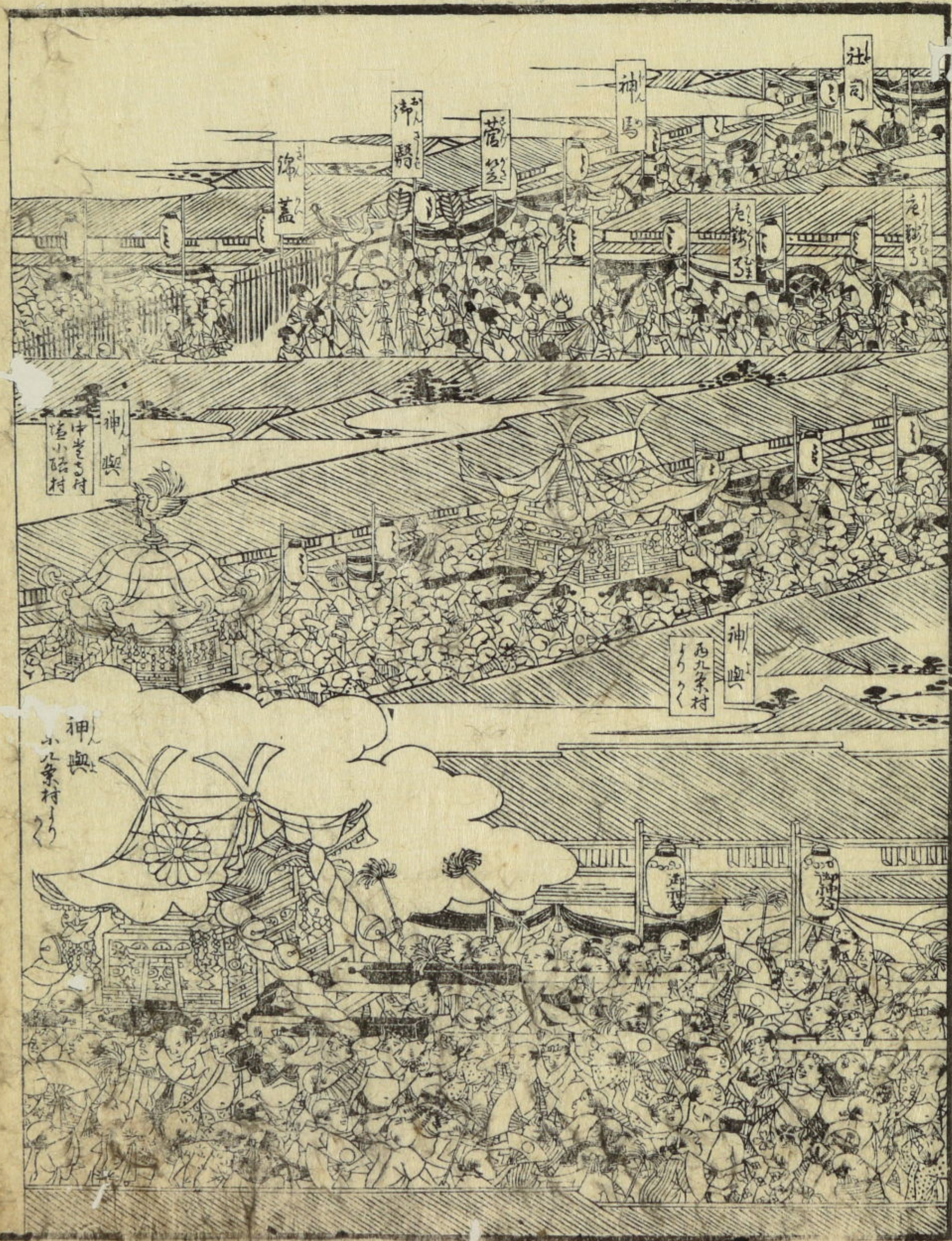
五條橋

行事三上二



社司

社司



と大文字小書に二ツ其意は、
明神を考へる籍と記し、
云々又、
より千年の今、
大少、
七条の北、
松原と云、
依、
甲、
弓、
櫛、
列、
後、
終、
其、
河、
凝、
梅、

行事三ノ三

諸國

上卯

○任吉卯系

攝津國任吉郡小あり 神傳六月系下小記を

今日神樂一基、
座神功皇后十一年辛卯、
卯日、
大、
神、
神、
國、
神、

○

大神系

大和玉座、
神、
神、
國、
神、

神代卷云

大己貴神、
神、
國、
神、

國の二諸

山、
神、
國、
神、

神形

八、
神、
國、
神、

京師

上辰

○八瀬系

山城國愛宕郡八瀬里

系神二座

天、

神、
の、
と、
次、
と、
を、
早、
場、
あ、
場、

上巳

○山科系

山城國宇治郡勸修寺あり 系神 醍醐天皇此社

○中久世下久世

系山 上久我 下久我

東土川 大寂 以上七村系

上午

○菅宮系

近江國野洲郡あり 系神 二座宇賀魂

上申

○平野系

山城國宇治郡北野あり 系神 五座

○茅一今本神

源家氏神

茅二久度神 仲良天皇 茅三古岡神 仁德天皇

○高階

茅四比賣神

天照太神 茅五縣神 天德日命 中原清原 菅原

○延曆年中

社を立負觀元年十一月九日始

系神 倉箱魂命 神興二基

○江文系

日宅名郡靜原村あり

系神 倉箱魂命 あり今日

○新宮系

近江國大上郡あり

系神 平田小泉 トカ 山脈 系神 倉箱魂命

上酉

○松尾系

比賣神 按さるふ當麻山に神社あり

○當麻系

大和國葛下郡あり

系神 當麻都比古社二座

○麻子王子命

比賣神

按さるふ當麻山に神社あり

○西

松尾系

比賣神 按さるふ當麻山に神社あり

○系神二座

大山咋神

市杵嶋姬命元明帝和銅二年四月十二日

○國山田

荒子山小傳

住者系祀上申日あり

○酉日

以用也

江原身之天平二年大社小領者負親始

○神樂七基

あり

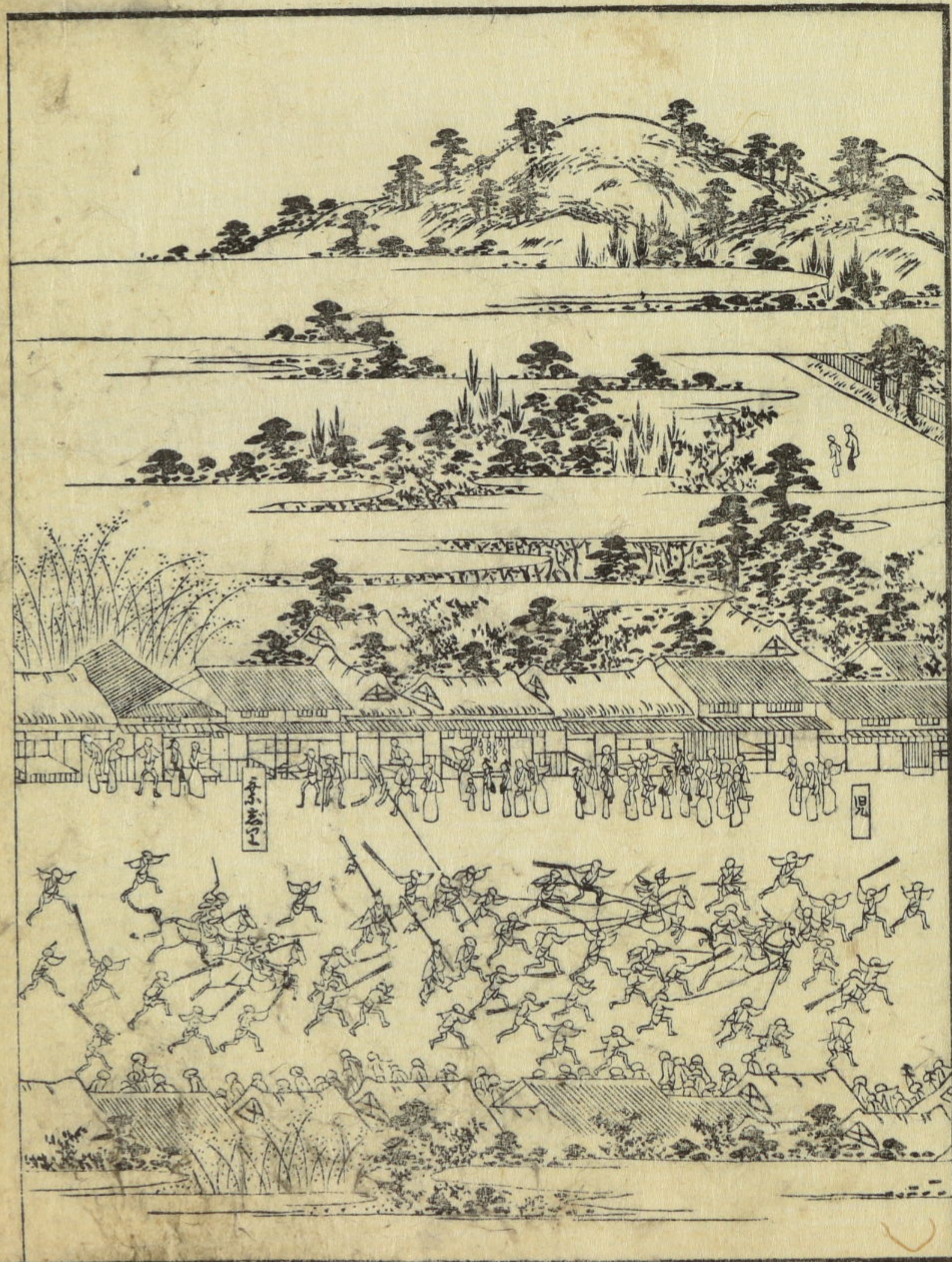
所謂中殿一基 月讀社一基 標台社一基 二宮一基

○宗像社

一基

夜手社一基 四大神一基 等あり

其式未詳七系全光の傍にあり系神の式あり
今松尾系神下三村あり具足と傳ふる者七人
未列先社神興を西寺金堂の殿跡に居たり
あり系神付よりこれを又松尾村にあり
て神興松尾川あり川のすそで松尾とて
西の岸より松尾の社友川の東北岸まで



西ノ其寺戸上極楽より巫女を出て馬にて神楽の儀を
行ふ又白狐のしるし獅子頭と申し神楽の儀を
おめく獅子舞と申し村長
これ小扇をふりて止む

中午

賀茂清陰系

山崎國愛宕郡下鴨小落彦

神祖皇太神

号と宗神二座大已貴命東玉依姬西神祇正宗云社家秘

申有形乃露頭一社一々々々神名帳云神祖神社大已貴の子

大山作神玉依日女々々々々上賀茂神の母あつて落彦乃

傳秘なり武元上賀茂系神祖を拜する下賀茂系を拜

して神人列と云い神馬は落彦を渡り青樂を奏し東の方比叡山を

西の落彦の社より逆ち落彦社小落彦の神二座神傳秘はて

は地より鴨の神祇向の所也平西の西日た葵系と謂ふは落彦社と

小落彦系を指し康富記云嘉吉三年四月廿日丙午鴨落彦系

如例々々祭中絶する事年あり一々元禄七年甲戌四月十日

十四日酉日神再興あり一々落彦系祭と云ふ二編と云

多賀系

近江國犬上郡あり

系神伊弉諾尊

神代卷云伊弉諾尊功既了りて神武天皇あり是より天武天皇

報命して乃日之少宮小留宅と云近江と云の初めは伊弉諾尊

系武小頭人々々々々あり是より大上郡の内々々々々々々々々々

三月の祭神武系を伺ひて定む日其頭人ありて家々々々々々

神武系三人神武系馬と云神武系と云神武系と云神武系と云

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

系武系人々々々々々系武系の人々々々々々系武系の人々々々々々

たる傍神輿に又附の作候と傳へられし海へ渡りて幸て十九
臘月神輿子酒より又青樂隊奏し其座の上より儀の形を
形儀の面と被り七人遊戯をせし儀と山王の使令也此時少少にて
幸儀の儀より神輿小對して還神儀の後云々幸あり神輿の
別番神輿七中と持来して次第小是と渡を是輿中の神馬小騎
入を起しおきくは神名と唱ふ神輿にを被るを起しおきくは神名と唱ふ
比敷過ぎる文の行ふ儀に受け八条橋大橋の家くぬ庭儀儀儀儀
乃と照る儀に敷過ぎる儀に受け八条橋大橋の家くぬ庭儀儀儀儀
地を起しおきくは神名と唱ふ神輿にを被るを起しおきくは神名と唱ふ
等輿より神輿の儀を起しおきくは神名と唱ふ神輿にを被るを起しおきくは神名と唱ふ
聖日已別社家各社家より神輿の儀を起しおきくは神名と唱ふ神輿にを被るを起しおきくは神名と唱ふ
して神輿の儀を起しおきくは神名と唱ふ神輿にを被るを起しおきくは神名と唱ふ
と云くは神輿と山門小属する所の供人猛威と振ひ神幸と登園に
其式の後彼方に故実ありて七年親されん悲く見そ難くと云う
法園の僧人群を起し馬場小集り或は起し或は起し幸儀の儀より起し
神儀の式を見るもあり又神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中
見むと云く馬場より七中神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中
に起しおきくは神名と唱ふ神輿にを被るを起しおきくは神名と唱ふ
神儀の式を見るもあり又神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中
なりと云く馬場より七中神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中神輿七中
森陽燄兩人丹台余ありて近に國二十に在りて交死せしめ終り又九十

中西

九浦の初穂十分一恒世が支配と云ふと云く神儀と御進せし今ハ
祭あ七日の間神儀頭人の衣に儀の被れ幕と張付束の束人感ハ
交易の形を起し起し其形を起し起し其形を起し起し其形を起し起し
と十か一と云く初穂十分一
一紙を起し起し其形を起し起し其形を起し起し其形を起し起し

○賀茂藝祭 又國宗と云く賀茂上賀茂兩社の事あり

上賀茂 或時又可茂 山城國名郡小あり祭神別雷皇右神

神祇正宗云社家秘して申有あり故小露形と云くや云く

二十二社注式云日向必又天降坐と神賀茂建南所令と云く神

儀祭吾亮天皇の御前に坐と大和國葛本に宿と被り山宮の玉

國古の賀茂小辻幸山代川より下坐と葛川と賀茂川を今人處と云

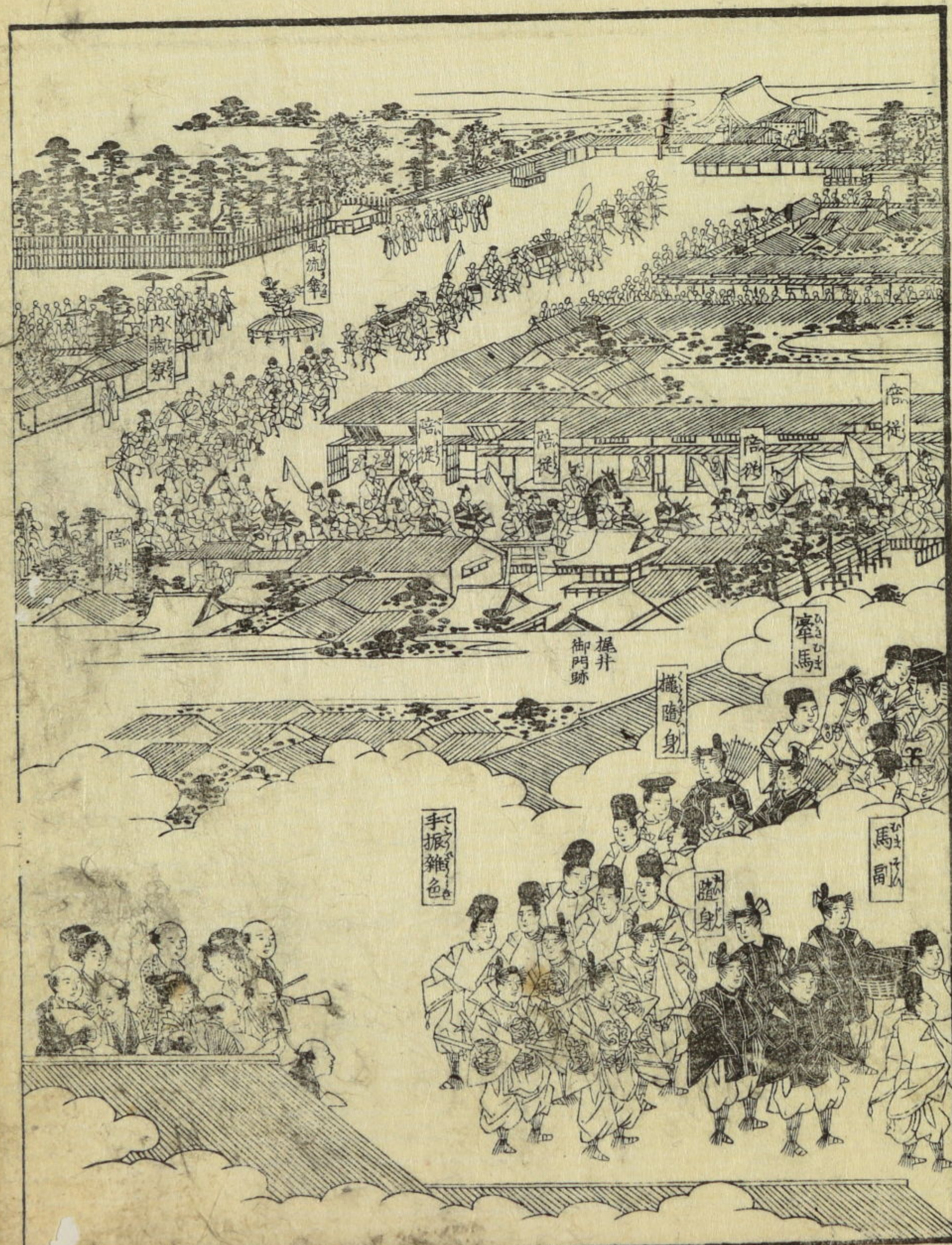
坐終り石川の清き流に流るるなりと云く石川流るる小川と号く川より下坐と

決定終りて山の麓に住居する其時より山と賀茂と云く

豊葦原卜定記云古仁八十萬乃神達乎天高市仁集給比神議仁

議給天可遣神於尋出之奉利此國倍鹿島仁坐武雷神香





其三

六百五十五
なつての
世のふり
うぐろ
けいひま
実蔵
川
有奈朝臣

中亥

○儀成系

山城國高野郡小あり

愛宕神社の事紀あり

本社を月形愛宕山と云ふあり一多居と云ふ坂路の十町余神二座分年

冊尊史産靈尊 神系圖傳云軻遇突智者火神也故云神火

災を蒙りて社を平安城の乾隅愛宕山と云ふ火災と降く云々

豐葦原卜定記云戌亥 仁當 王都守護神明座 即天神第七

陰神也火災 永退 爲也 止天 若宮 火産靈 置王 奈利偏 帝

都靜謐 基也 云々

尚社地云鷹峯の東にあり天應元年釋慶俊今此靈地小將軍地

神樂二基あり一基は野宮の神樂より聖文天皇儀成小あり衆神神明

い所昔停勢の存肉親王神樂斎の故停勢より遷移の最儀儀成より所より

其式神樂二基と傳傳あり月小あり衆客の神樂本冠を金鳳へ巻

山より韓櫃に納先山と云ふ神樂小あり清涼寺内小あり衆客

行事三上元

朔日

○更衣

先代旧事記云四月一日天皇羅縵圓紋の單衣母

直裝張袴と衣母法王云九卿皆羅縵紋の單服を著其直裝白

重なり天氣の正節小順て正道正装と爲と云々

云夏根源云云より衣母云々中而此衣母云々掃衣素あり

御殿の御帳けさびたりてより胡粉を塗紙の襷代を微を

形を衣母云々を云々御服を云々此後乃御服を云々

なる内花素と云々云々女房の衣あり衣母云々夜之の御

衣云々衣母云々衣母云々上福房物小上福云々衣母云々

或泥云四季に泥と云々衣母云々衣母云々衣母云々

ト小袖を云々衣母云々衣母云々衣母云々衣母云々

四月八日
灌佛之圖

年中必夏會
嘆そめ
卯月のそと
うそまは
はくわくき
はる花
うさ
新中洲



如来淨智功德莊嚴五濁衆生令離垢願證如来淨法身云々國史云仁
明天皇和七年四月八日傳燈大法師位靜安請清凉殿於起淨佛
とりよとく齋事記云正安殿於山石と造り佛誕の狀と掲本乃花
州のむと作り中庭の麓茂密案北と不安一五香れ五あを五色の八乃盛
五色の絲とあり衆花を結ぐ掛布花房と布施金網を以て五寸六寸
釋迦像と作て金網の中にまゝ虎僧伽法了て天皇親く二つび佛と懺され
を作り終り次小法君あゝ隨々拜倚一漢佛一衆僧小布施を授ふと云々
今日法も先あけく其内誕生佛の山像と安く下ふ八洲盛茂乃を小法
若れ香水と入と小松とありく小像に漢く又院内小法君と授ふと云々
施を美樂山とありく小の花を特小法君と授ふと云々
蜀石南苑の花を三股とありく半額と授ふと云々
業も付し摩耶主人小法君と授ふと云々
結夏又安居と云結夏安居の事也梵網經云若佛子坐禪結夏安居
と云安居と云梵語と云靜と云一夏九旬と云一夏九旬の間報恩修徳況ん
道の後神母摩耶主人の物切利天也登く一夏九旬の間報恩修徳況ん

く修成監錫とん

今日より七月十八日百日の間法も先あけく其内誕生佛の山像と安く下ふ八洲盛茂乃を小法
若れ香水と入と小松とありく小像に漢く又院内小法君と授ふと云々
施を美樂山とありく小の花を特小法君と授ふと云々
蜀石南苑の花を三股とありく半額と授ふと云々
業も付し摩耶主人小法君と授ふと云々
結夏又安居と云結夏安居の事也梵網經云若佛子坐禪結夏安居
と云安居と云梵語と云靜と云一夏九旬と云一夏九旬の間報恩修徳況ん
道の後神母摩耶主人の物切利天也登く一夏九旬の間報恩修徳況ん

比叡山戒壇堂佛生會

郡東八迫江流賀郡より
比叡山戒壇堂佛生會
山と炭を以て兩國小法君と授ふと云々
郡東八迫江流賀郡より
比叡山戒壇堂佛生會
山と炭を以て兩國小法君と授ふと云々
郡東八迫江流賀郡より
比叡山戒壇堂佛生會
山と炭を以て兩國小法君と授ふと云々

又一乘止觀院と名づて根中堂本尊藥師如來皇城鎮護の靈場
大師弘仁十年三月圓宗本系戒壇を建んををふ大師入部初七と懸
せんがふ弘仁十二年六月十日右儀射藤冬嗣と使して因戒免許の
詔を賜て創て戒壇を築け十四年四月十日修禪和尚義真よりめて
受戒を以て終る皇朝を終る元龜元年九月小田信長のふふ滅亡を
之同秀吉再興の事あり終る又長年中と寛永十七年より
悉く改造ありて上より復と竹寺導所天宮座主妙法院寛文法親
王あり今世薨を即む者則ちなり

當時受戒座主の沙汰あり結夏より今日より受戒壇を築き
舎と修て之を系續し又今日女人を免して東坂本花梅の妙法
花梅の社と傳教大師の清母妙法婦人を免して云婦人存生の時大師小
傳教大師の傳は六月四日の祭りふある

○山崎系 山城國乙訓郡山崎の山上十六町あり天神八王子
社と云系神素盞鳥乎所子八王子 神祇拾遺云山崎神酒家神地主

行事三王至

神八山祇命とて今傳ある處也

其式正月朔日とて七日ふある古風の儀式あり七日午刻少將代童使神
舞神祇の秘曲奏し舞あり神友勾當湯と持て大改修の長
若昇殿して神祇と風輦三基小進しなる神聲音楽神祇と奏
一之改修長者拍子合を伴ひし次は勅使少將代社務大改修長者
神友勾當別當乙女神樂男木風輦を伴ひて山下の改修と進
ちる路次也樂あり
八日辰刻少將代童使神舞此系白き見事取とて其の修葺勅使
系白の仍列の修風ありとて午刻少將代の齋室本修とて日の幸れ出
仕あり當日第一の儀式あり未刻風輦三基と五條川のより先
樂あり八幡文の南門齋居の前より神友三人を曲神祇
を鼓を少將代系神とて神友の群居本進しなる神聲あり神
友神祇と持て神友三人系神祇より神友の群居本進しなる神聲あり神
列して天鼓の系風輦の左右あり列して社務神友より神友の群居本
て神友の群居本進しなる神聲あり神友の群居本進しなる神聲あり
系神友の群居本進しなる神聲あり神友の群居本進しなる神聲あり
系神友の群居本進しなる神聲あり神友の群居本進しなる神聲あり

水無瀬祭 山城振津の界あり振列の上形小属氏 系神也

八王子 廣瀬系系神也

其式頭系系神也

武蔵守元是を前よりけり神樂にむらひ後と修に其首小樹のふと
竹玉とらふ
横むらふ万葉集大伴坂上郎女東神樂 市戸手忌穿居竹玉宇樂
不葉露と見えしう今勢の雲中又三梯の山中或は必やん社地
墓陵より出る句玉の一様みして葉白く
管石形どくふそのれそくくは属あらん

○真福寺併生會

南都ふあり

今日人舞樂成奏を其舞の中陵王の仮面舞より級小里俗
は法ををいで舞を舞ふなり

○春日安居屋

南都にあり

今日より真福寺の傍一人妻月社安居屋小舞と天下泰平の舞
舞のたえ夏中毎日一切経成結讀をけ屋の中ふ春日の神降
除のふありは不淨の人と入むは偽けりて入付衣服と持ふ納光
又聖戒の宿奉養のた成格のよき金と舞ふける年十六石と毎夜
寺を院

○警田檀輶

河内國古市郡警田八幡若文の例案あり

今日車樂二輛を出ん其神上より舞を舞ふ大傘の下に各鳥
甲城を二儀を被ふを舞ふ音樂のたありは神功皇后
三降退治の右例ありて車樂の始よりふは車樂降幸にあら
一年ハ車樂一年ハ申樂成執むをま舞ふ方へお給よりある神樂と
八月十五日の
案下にあらん

○新摩祭

近江國坂田郡ふあり 系神津食津神

新和集 後歌 云近江國法守此神と申神抄より傳を其神乃に
あて女の男とる教ふとるひを編をけりて其祭の日にてまの
男あまふとる人を見りてさうなり形をまのまは物とん
あふ病けにさあふる教のあふりて新まはるなりん
やする也き

拾遺 云いふを法守の祭をやせる人ほまらるなりたるむ 湊人ふた
尚社の系或は法守に月朔日ありて新和集より系とて村婦各其男
あまふとる教ふ應りて土の鶴成戴を系記ふ物とるなり今ハ
今日十二三歳をうりた女名下舞ふ物とる神の持れめれとの
紙をりてはと遠りて鶴を戴きふは鶴取と提ふ若十二三人
流の里より出てはみ所より舞ふ村中壯家と提ふと提て其後小従人
奥渡津の竹とるなりけり村中壯家と提ふと提て其後小従人
見むとる花人形とるなり或は鶴と提ふと提て其後小従人
後へ中よりこれとるなり是系一時の壯記なり

○芝祭

出羽國最上郡大泥村ふあり

大泥村ふちなる池あり今日尚寺の一山に十八箇もの山伏は池を
終まより順更りて池邊の芝生に五尺ばかり舞く池よふ澤と
彼方

○ 法同嶽散殘集

信濃國佐久郡あり 嵐帝の煥事を知るべし

九日
○
地主祭

洛東清水寺にあり
神社考云
祭神 之已貴乎

十四日 ○ 當麻遼供養

大和國葛下郡あり禪林寺と号に

行事三十七

伊沢又治郎

十三日より十日より五日より三日より一日より迄

是あり十日土人二十又其後の
 寺ふ新りて此虎傳音樂を奏

本通に接し佛次擬はんを移し住書は其内親清勢玉の役とあり
一々各筆の名を執り各段面を掛なり菜煙料を切らん或る

止ま^る蓮^の蔓^を羅^{あり}可^い謂^ふ云^ふ漢^の射^候佩^の女^中將^姫安^あ雲^ん渚^し

新と欣なほひ天平ていへい宝字七年ほうじしちねん當寺あたうでらに入いれる藉せき敷しき一いつ摺すりく我われ孫そ陀だの志し身み
 見み寺でらと一日いちにち忽たちとと尼に多たく云いはは淨じやう土どと見みを

弥陀と親せん百弦の蓮莖松集むる
 中乃尾綱小巻一

五穀の色とりん又一女来く其縁成得く殿の西小の隅
 木おあり幅一丈

又尺牘年小松集浮世の伴非と續集に其様松々暮らせの如し
て止む僅三寸ありて迷ふ織纒く節を尽行とありて耽く是を中將

屋上より去所北尾より西方教皇紀女と親書之土より中將尾豊と云
 益持修にて金重六年三月十四日端座

三ノ中ノ古題に羅の靈皮を輔あはなふて靈席きよくに納おさめ今用らるゝ新曼陀羅之

延宝二年画工良契深墨の写に変わなり

神衣祭 旧事記云四月十四日天皇神服部小命上之三河赤

A close-up, vertical view of the fore-edge of a book. The image shows the binding material, which appears to be a light-colored, textured cloth or paper, and the edges of the pages. The pages are slightly discolored and show signs of wear. The binding is visible on the left side of the image.

引神調系と云く神衣と織又麻績連小令とて去年作の神麻を
その敷絶美衣と織又神宮小奉所せり

延喜式云和妙廿四匹八匹の度サ一尺五寸八匹の度サ一尺二寸 髻絲頸玉手玉

足玉の緒 袋襪の緒絲各十六丈 縫絲六十四條五尺 長刀子一枚

後刀子 縫針 洋絲各十枚 著絲玉串二枚 韓櫃一合一合の衣と盛

宮一合衣並雜 荒妙衣八十匹二十匹の度サ一尺六寸 刀子針各廿枚

韓櫃一合

其の式云く 神宮司祿宜内人等服部織女八人と半の明衣と云く
五串と執く 神衣の度サ一尺五寸八匹の度サ一尺二寸
再指兩股縫て手と袖度サ一尺五寸八匹の度サ一尺二寸
頭玉の玉と縫く 頸小くけ 襟と袖と縫く 別宮極社懸く 又
又衣の裾と縫く 又衣の裾と縫く 又衣の裾と縫く

土塔會

振津國東成郡天王寺南大門の下土塔塚の前小町

祭神牛頭天王

此の祭神は牛頭天王と云く 今天王寺の傍に堂司祭人等出仕

京師

十五日

新熊野社大般若 法東大佛殿の東南あり

五山素拂

五山素拂と云く 素拂五山と建仁寺東福寺天龍寺相國寺万壽寺

等なり 南條寺と五山素拂なり 此の御家の寺院あり

素拂と云く 御家の傍に出世して和名素拂と云く 素拂の式は

素拂の式は 素拂の式は 素拂の式は 素拂の式は

諸國

十六日

二井寺千圓鏡

近江國滋賀郡二井寺鬼子母神の事也

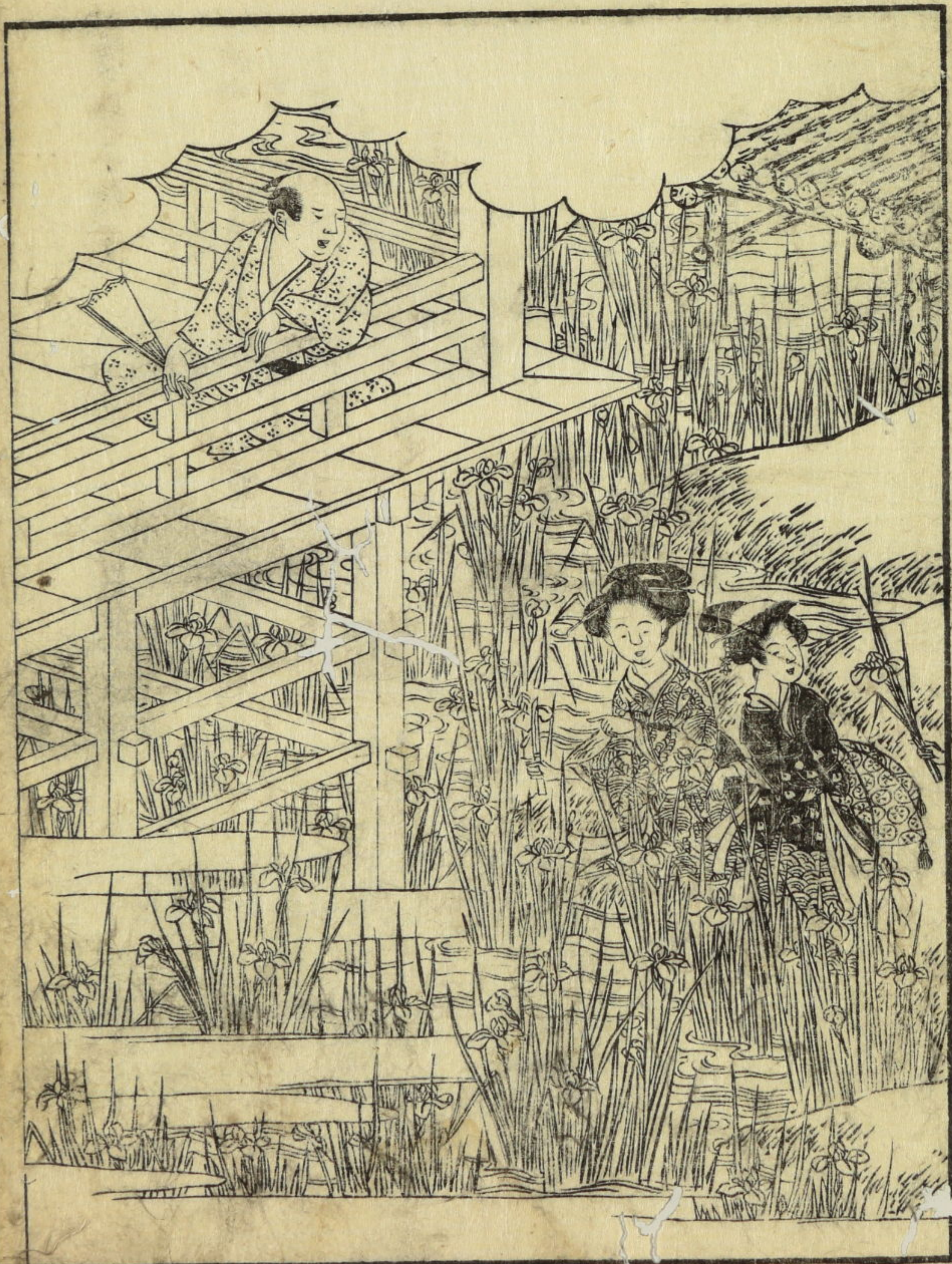
鬼子母神と云く 訶梨帝母と云く 智院大陀南寺定春の村山下に現れて

此と備儀の如きあり 此より寺に訶梨帝母神と云く 此の式は

夜叉女名と云く 欽存と云く 五子れ春属と云く 此の度健駄羅國半又此の夜

叉將小娘と云く 一千子と云く 千子皆教万鬼と云く 母神の性暴悪ありて

此の男女成体取く 敬小佛其意なりと過人爲一神と云く 一子と云く



賞賛子花園

池水よりひらひら
あふみかあつて
まはるくはるく
色に出る

小窓成章

○は月争多く物ふ三宝虎のつま小姓は公院つまより争成 林森

○は月牡丹芍薬花の盛んなり
牡丹芍薬を引え花川の河上丹太本の牡丹ありて人擧列布引の魚の魚り盛ん
ふと又太本の牡丹ありて人擧列ハ橋業平の寄より多きゆりてを軒
盛の池物ト花人多くこふはひてまふ

諸國中行事大成卷之三上終



行事三上三

